安心おうちケア 予防接種編

予防接種はさまざまな病気の予防や重症化を防ぐために有用です。
1歳以降の幼児期に必要な予防接種について、なぜ必要なのか、どんな病気に対する予防接種なのか、子どもへの対応を含めて説明します。

そもそも予防接種（ワクチン）ってなに？

予防接種とはワクチンを接種して、免疫（病気に対する抵抗力）を作ることにより、発病を予防したり、症状を軽くしたりする方法です。

自然感染の場合

感染症 → 免疫

重症化する危険性 …… **高い**
他人に感染 …… **感染しやすい**
作られる免疫 …… **強い**

ワクチンの場合

ワクチン → 免疫

重症化する危険性 …… **ほとんどない**
他人に感染 …… **しない**
作られる免疫 …… **少しだけ弱い**

強い免疫ができるなら自然感染の方がいいのでは？と思われるかもしれませんが、予防接種が必要な病気は重症化すると後遺症のリスクや命に関わる危険性のあるものばかりです。
予防接種は**実際に発症させることなく、他人へうつす心配もなく、安全に免疫を作り出せる**という大きなメリットがあります！

予防接種でつくられる免疫は自然感染に比べて弱いため、何回か接種する必要があります

予防接種はどうして必要？

①感染を防ぐ、感染した場合の重症化を防ぐ
②みんなが免疫を付けること（**集団免疫**）で病気自体が流行しにくくなる
③医学的理由で予防接種できない人を守る

今ではほとんど見かけなくなった病気もありますが、これは多くの人が予防接種を行ったことでその感染症が流行しにくくなったということ。
予防接種をすることは**自分だけでなく周りの人を守るためにもとっても重要なこと**です！
そして私たちも今まで予防接種をしてくれた多くの人たちのおかげで守られているのです。

大事だとはわかっているけど…子どもが嫌がるときはどうしたらいいの？

予防接種、嫌がる子どもも多いですよね。針を刺すことで痛い思いをするので、痛いだけの嫌な思い出にならないように、接種前後の関わりを大切にしていただきたいと思います。

こんな声掛けや行動していませんか？

「今日は注射じゃないよ」「痛いことはしないよ！」

嘘をついてしまうと親子の信頼関係に影響することも。
お子さんの成長に合わせて、予防接種の必要性も含めてお話ししてあげてください。
心の準備ができると頑張れる子も多いですよ。

「悪いことしてたら注射されるで！」

子どもが悪いからされるわけではありません。
注射が罰のようなイメージを付けないようにしましょう。

「（痛い思いをして）かわいそうに」「ごめんね」

子どもが痛がる姿を見るのはつらいかもしれませんが、本人が不安になったり嫌なことをされているという気持ちになってしまいます。前向きな声掛けが嬉しいですね。

「泣いている子どもを見て笑う、または怒る」

泣いてもいいんです。痛さや怖い気持ちを乗り越えて頑張ったお子さんをたくさん褒めてあげてください。子どもたちにとっておうちの方が一番の味方なのです。

前向きな言葉や認めてあげる声かけを

病気のバイキンがきても
やっつけられるようにするんだよ！
元気に過ごすために
大切なことだから頑張ろうね

痛いのにがんばってとっても強かったよ！
最後まで動かずにできたね

すごくがんばったから
お家に帰ったら〇〇しようね！
（気持ちの切り替えも大切）

予防接種だけでなく、病院で行う注射は大切なものです。
「子ども達を守るもの」「元気になるために必要なもの」ということを教えてあげてほしいな、と思います。

裏面に続きます

幼児期に接種が推奨されるワクチン一覧

	疾患名･ワクチンの種類	感染経路・症状	罹患時の登園のめやす	ワクチンの接種時期	ワクチンの期待できる効果
定期接種	MRワクチン （麻疹･風疹混合ワクチン）	**麻疹（はしか）：空気・飛沫・接触感染** 感染力の極めて強いウイルス。38℃前後の熱が一時的に治まったあと、再び39℃～40℃の高熱と発疹が出る（二峰性発熱）。咳･鼻汁･目やにの症状も出現し、3～4日高熱が続く。気管支炎や肺炎を合併することも多く、脳炎を起こすこともある。麻しん患者の1000人に1～3人が亡くなるとも言われている。 **風疹（三日はしか）：飛沫感染** 風邪症状から始まり、発熱、発疹、リンパ腺の腫れが出現。2～3日で治ることが多いが、年長児や大人は治癒に数日かかることがあり、まれに脳症や血小板減少性紫斑病などを合併する。また妊婦が妊娠初期にかかると、赤ちゃんが心疾患や難聴などをもって生まれる先天性風疹症候群になる可能性がある。	解熱後3日を経過していること 発疹が消失していること	1期 生後12～24か月 2期 5～6歳 （就学前年度4/1～3/31）	1回接種で95%以上、2回接種で99%以上の人が免疫を獲得できる 極めてまれに麻疹や風疹にかかってしまうことがあるが、未接種の人に比べ症状は軽く、周りへの感染力も弱い
	水痘	**空気・飛沫・接触感染** 感染力の非常に強いウイルス。初感染では発熱とともに全身に痒みのある水疱性の発疹が出る。回復後も持続感染する性質があり、免疫機能が低下した際に、帯状疱疹となって現れる。健康な子どもがかかった場合の合併症はまれであるが、大人や免疫機能が低下している人がかかると症状が重くなりやすい。	すべての発疹が痂皮（かさぶた）化していること	生後12か月以上3歳未満 3か月あけて2回接種	1回接種で77%、2回接種で94%かかるリスクを減らす もしかかってしまったとしても症状は軽く済み、合併症の頻度も下げることができる
	日本脳炎	**蚊に刺されて感染** 高熱、嘔吐、頭痛、けいれん、意識障害などの症状（急性脳炎）になることがある。症状はウイルスを持った蚊に刺された人100～1000人に1人程度に出現する。脳炎になると死亡率は20～40%、神経に後遺症が残る人は45～70%にもなる。		1期:生後6～90か月まで3回接種 2期:9～13歳未満に1回接種	かかるリスクを75～90%減らすことができる
任意接種	おたふくかぜ （流行性耳下腺炎、ムンプス）	**飛沫感染** ムンプスウイルスの感染により、発熱と耳下腺（耳の下あたり）または顎下腺（あごの下あたり）の腫れがみられる。腫れは両側にみられることが多い。低年齢ほど症状が出ない不顕性感染が多いが、感染力はあるため定期的に流行する。合併症として無菌性髄膜炎や難聴を起こすことがある。難聴は1000人に1人に起こると言われており、治療法がない。思春期･成人男子がかかると睾丸炎を起こすこともある。	耳下腺、顎下腺、舌下腺の膨張（耳下あたりの腫れ）が発現してから5日以上経過し、かつ全身状態が良好になっていること	1歳以降であれば年齢に関係なく接種可 〈推奨される接種時期〉 1回目:1歳 2回目:就学前（5～6歳）	1回接種している国では88%、2回接種している国では99%発症者数が減少している
	季節性インフルエンザ	**飛沫・接触感染** 高熱、鼻汁、咳、全身倦怠感などの症状が出る。通常は1週間程度で症状は改善する。抗ウイルス薬を服用すると平均1～1.5日程度発熱期間を短くすることができる。まれに肺炎や脳症など重症化することがある。ウイルスは毎年少しずつ変異し、流行を引き起こす。	発症後5日を経過し、かつ解熱後3日を経過していること （小学生以上は解熱後2日）	毎年接種が必要 6ヶ月～12歳:2回接種 13歳以上:1回接種	小児の場合、感染を防ぐ効果は乏しいが、重症化を防ぐ効果が期待できる。

三種混合ワクチンについて

近年小中学生の**百日咳**患者が増加しています。これは赤ちゃんの時に接種した四種混合ワクチンによる百日咳の発症予防効果が年長児頃から低下してくるためと考えられています。そのため、就学前（5～6歳）に三種混合ワクチンの追加接種が推奨されています（**任意接種**）。

百日咳とは（学校指定感染症）

連続的なひどい咳が続き、息を吸う時に笛のような音が出るのが特徴。乳幼児では呼吸困難になりチアノーゼやけいれんが起こることがある。肺炎や脳症など命に関わることもある。

四種混合（定期接種）： ジフテリア･破傷風･百日咳･ポリオ
（生後3か月～90か月まで）
三種混合（任意接種）： ジフテリア･破傷風･百日咳（5～6歳の接種を推奨）
二種混合（定期接種）： ジフテリア･破傷風（11～12歳）

子宮頸がんワクチン（HPVワクチン）について

子宮頸がんは年間約1万人に発症し、約3000人の若い女性が命を落としています。HPVワクチンは原因ウイルスの感染を70～90％予防できると言われている**定期接種**のワクチンです。積極的な接種勧奨をされていますが、現在も接種率は低いままです。
予防接種でがんの予防ができるのはB型肝炎ワクチンと子宮頸がんワクチンのみです。打ち始めから終了まで6ヶ月かかるので、接種対象年齢になったら計画的に接種しましょう。

〈接種対象：小学6年生～高校1年生の女の子〉

病児保育室とう太

併設 うえだこどもクリニック
UEDA CHILDREN'S CLINIC

〒520-2331 野洲市小篠原869番地1 077-596-3751

web予約受付

Instagram
UEDAKODOMOCL

LINE
ID：276kwqfx